



unite for diabetes

世界の糖尿病有病者数は成人の全人口の6%で、今後20年間に3億5,000万に増えると予測されています。世界では10秒に1人が糖尿病で亡くなる計算で、HIV感染による死亡数と同程度の脅威とされています。この状態を受けて、2006年12月 糖尿病に関する国連決議が採択されました。

決議には「11月14日を国際糖尿病の日と定め国連加盟国に施行を求める」「各国が国家的見地から糖尿病に対する施策を奨励する」「広く認知されるよう報道機関への支援を求めていく」などが盛り込まれています。

ブルーサークルと呼ばれるシンボルマークが制定され“糖尿病に対して団結していこう（Unite for diabetes!）と宣言しています。

Unite for diabetes! この本も同じ思いで 皆様の座右の一冊となることを希望します。

# 編集の序

日頃、初期研修レジデントと接していると『こんなことが疑問点なのか』『こんなことが間違いやすいことなのか』などが見えてきます。これらには専門医でも十分に整理されていない点が多々あります。糖尿病の診療には公式通りにいかない経験的要素が多くあり、マニュアル世代にはピッタリこない所かもしれません。しかし、それが糖尿病診療の最も面白いところ、医者なりの色々な工夫ができる点です。そんな糖尿病診療のアップ・トゥ・デートをわかりやすく伝えられればよいと考えていました。

このたび、思いがけず羊土社編集部からお話をいただき、初期研修レジデントの皆様や糖尿病を専門としていない若手の先生、また糖尿病診療に携わるコメディカルの皆様にも役立つハンドブックを出版することになりました。

糖尿病専門医とはいっても第一線の臨床病院で働くのみで、アカデミックな活動は皆無である私には、小さな本とはいえ如何にまとめるかは、とても荷が重い作業でした。幸運にも日頃よりご指導を賜っている順天堂大学 医学部内科学 河盛隆造 教授にご監修いただき、教室の多くの先生にご執筆をお願いすることができたので内容が格段に充実したものになりました。また、日頃業務をともにしている院内スタッフのみならず、いつもの的確なアドバイスをくださる全国の諸先生にもご執筆を賜ることができました。ご執筆いただいた先生はいずれも糖尿病臨床に人一倍情熱を注がれている方々です。

本書の特長としては、①フローチャートが付いており、診療の流れが簡単にとらえられること、②ポイントとチェックリストが明確にしてあり要点の把握がしやすいこと、③重要なエビデンスと考えられる文献が押さえられていることなどがあげられ、糖尿病診療に慣れない方でも容易にアップ・トゥ・デートがわかるという配慮がされています。この企画にあたっては羊土社編集部の菊地様、溝井様にご助力いただきました。執筆者を代表して心から深謝いたします。

2007年 8 月

日吉 徹